

平成 21 年度 京都府立大学地域貢献型特別研究 (ACTR) 成果

分類 番号	A5	取組 名称	京都府北部地域における薬物依存についての相談・支援のあり方に関する研究
研究代表者: 公共政策学部(研究科) 准教授 山野 尚美			
研究担当者: 京都府立大学(山野 尚美(敬称略)) 外部分担者・協力者(加藤 武士氏、太田 実男氏、阪本 高司氏、出原 和宏氏)			
主な連携機関(所在市町村、機関(部署)名)			
特定非営利活動法人 京都 DARC 国立病院機構 舞鶴医療センター			
【研究活動の要約】			
<p>近年深刻化が指摘されている薬物乱用・依存については、予防や再発防止に向けての積極的な対応が求められています。しかし、これらの問題が実際に起こった場合には、なかなかすぐに周りに相談しづらく、とりわけ地方都市部においては、こうした傾向は強いようです。既存の関係相談窓口の受付件数も、マスコミ等で報道されている検挙者数等に照らすと圧倒的に少なくなっています。このような状況を踏まえて、本研究では、薬物関連の問題で悩みを抱えるご本人やご家族が利用しやすい相談・支援のあり方の検討するため、以下の活動を実施しました。</p> <p>(1) 薬物依存者を対象とするピアグループミーティングの実施(舞鶴市内において1ヶ月に1回) (2) 薬物依存者のご家族等を対象とするグループミーティング(舞鶴市内において1ヶ月に1回) (3) ご本人とご家族が直面している心理・社会的困難とニーズについてのデータの収集と分析 (4) 治療・援助者への聴き取りによる当該地域における相談・対応の概況の把握 (5) 薬物依存者のご家族等を対象とするワークショップの開催</p>			
【研究活動の成果】			
<p>プログラムへの参加者から、これまでになかなか知り得ることが難しかった、「相談のしづらさ」「助けを求めるまで、どのように対応しておられたのか」「相談・支援プログラムの利用にあたって必要な条件」等に関する、生の声を聞かせていただくことができました。これらを踏まえて、今後の課題を次のようにまとめました。1)薬物依存者とその家族の相談・支援プログラムの積極的な利用に向けては、プログラムの定期的かつ継続的实施が不可欠である。2)処方薬等の未規制薬物の使用や飲酒との複合的薬物使用のケースが見られることから、初期相談においては、アルコール依存と薬物依存を同時に視野に入れたプログラムの検討も必要がある。3)いずれのプログラム参加者からも、京都府北部地域から都心部へのアクセスのしにくさについてと同時に、「近所の人に知られたくない」との強い不安があるとの声が上がっており、当該地域でのプログラムの提供等による相談・支援プログラムへのアクセス向上と匿名性の担保をいかに両立させていくかが、とりわけ大きな課題である。</p>			
【研究成果の還元】			
H21/4～H22/3 毎月第二木曜開催 国立病院機構 舞鶴医療センター 「京都 DARC メッセージミーティング in 舞鶴」 「ご家族・ご友人のための薬物関連問題対策講座 in 舞鶴」 H21/12/6 京都市 京都府立大学 ご家族等 28 名参加「あなたのための薬物依存対策講座」			
【お問い合わせ先】 公共政策学部 山野研究室 准教授:山野尚美 Tel: 075-703-5108 E-mail: n.yamano@kpu.ac.jp			